

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202824		
法人名	(有) アドスコミュニティーズ		
事業所名	グループホームポプラ		
所在地	札幌市北区新川 3 条 4 丁目 8 番 4 0 号		
自己評価作成日	平成 2 6 年 1 2 月	評価結果市町村受理日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202824-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北 1 条西7丁目1番あおいビル 7 階
訪問調査日	平成 2 7 年 2 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

有限会社 ふるさ

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と実践において、管理者及び職員は理念の共有を図り、町内、近隣との交流を利用者がふかめている。その人らしい暮らしが出来るよう実践につなげております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の皆様は協力的であり、福祉においても理解されており利用者様が地域と繋がりながら暮らせております。事業所自体も地域の一員とし、町内会・近隣の方に認知症の方への対応の仕方や、ポプラでのサービス内容をご報告する等、高齢者介護の視点で意見交換等の		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際は、ホームの状況や取組をお話している他、参加者より意見・アドバイスを頂き今後の取り組みに向けサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市・北区管理者連絡会・北区在宅ケア連絡会等の会議や研修の際にお話することがある他、わからない事等ある時は連絡を気軽に出来ています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場研修にて勉強会の際身体拘束のついて話し合いをしている他、定期的に職員に意識づけをしている。対象となる具体例をあげて話す他実践で指導し、正しいケアが出来るよう職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・職場研修の中で虐待防止についての勉強会を行い徹底しています。身体拘束同様日頃より職員へ定期的に意識づけをし、職員・管理者間で話し合いを行い虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護福祉士・介護支援専門員はすでに自ら学んでおり、その他の職員に対しては個々に指導を行っています。現に今現在成年後見人を付けている方がおり、後見人と直接色々なお話を聞く機会があり学ばせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居の際は十分理解が出来、納得された上で行っております。法改正時もポプラ便りに都度説明を加え、ご家族が疑問・不安を抱かれないよう取り組んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・運営推進会議時等でご家族からのご意見を聞くことが出来ている。面会時はその日のリーダーがご家族とのコミュニケーションを図る他、最近のご様子等をご報告しており、交流を大切にし運営に反映しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見交換・不満等を聞く他、個々に職員一人ひとりに目を向け話をする他こまめなコミュニケーションを図るよう努めている。尚且つ個別に面談が必要な時は行っている。会議時は必ず代表も参加しているのですぐに対応し運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が現場に入り職員個々の努力や勤務状況を把握し給与へ反映出来る他、コミュニケーションを図ることで、その場の評価が出来る・楽しく働ける・やりがいを感じて頂ける環境を作っている。環境整備を徹底している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合わせた職場内研修を実施している他立場に合わせた会議・研修も実施している・外部研修に行った職員からは必ずレポートの提出とどんな研修だったのか、ポプラで活かせることは何かを発表してもらい、ポプラ全体のスキルアップを図れるよう職員全員で取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加してもらい外部の職員との交流・意見交換が出来るよう研修の参加を呼びかけ取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時には必ず本人の思い・不安・困っている事等話を聞き、今までどのような生活をしてきたかを詳しく聞き取った上で本人の意思を尊重し、住環境が変わっても安心して暮らせるよう本人・ご家族との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時・見学時にご家族の思い・不安・困っている事等を聞き、本人、ご家族の意向に沿ったサービスの提供が出来るよう細かく話を聞き情報交換を行いながら本院、ご家族が安心して頂ける用関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が必要としている支援を整理し、優先順位を見極めている。他のサービスをご利用することについてもご家族と本人、施設側とで十分な話し合いが行われた上で対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ポプラの介護理念にある「家庭的で共に暮らす」とあるように職員全員は利用者様の立場に立って寄り添いながら共に過ごすことの意味を把握し日々のケアにあたっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には細かい情報も伝達し職員、ご家族様もチームの一員となってご本人を共に支え合える環境を提供できる様関係作りに努めている。職員は各ご家族の思いを考慮し共に支えあうよう行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきた馴染みの人との交流や、習慣となっていた場所への外出途切れない様職員見守り・同行の上支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、利用者の座る場所を工夫する等し、利用者同士仲良く支え合える関係作りが出来るよう配慮し、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でも手紙・ハガキのやり取りをして頂いている方もおります。ホームに足を運んで下さる方もおり、その際ご本人の様子・経過をお話ししている他ご家族の状況等もお話し出来、サービス終了後のアフターフォローもしっかりとサポート出来る様支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが自分らしく暮らせるよう本人の思い・過去の経緯を把握し、施設で暮らすに当たりその人らしさが失われないよう本人とご家族と話し合いをしながら本人の意向に沿えるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりこまかい情報収集を行い生活歴、どう過ごしてきたか、どんなサービスを利用されたかを把握し入居後は新しく発見出来た事は職員全員が把握出来るよう情報を共有しサービス利用の経過を見ながら状態の把握に努めています。変化時はご家族にご報告しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身の状態、有する力を見極め日々アセスメントをしながら申し送り時、カンファレンス時に情報共有を図っている。業務日誌にも日々の状態変化の際には記入をし職員全員が把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い・家族の思いを聞きながらカンファレンスで課題の話し合いや、振り返り・確認を行い利用者一人ひとりの現状に合ったサービスを提供している。その都度ご家族に説明を行い同意・了承を得て現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化があった際は業務日誌にて職員全員で把握し情報を共有しその都度ミニカンファレンスにて「どうしたら良いか」を検討し実践に活かし介護計画の見直しや変更を活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況を把握しその時その時に生まれるニーズに迅速に対応し臨機応変に対応している。(急な外出・受診等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や近隣の地域資源を把握し利用出来る時等は活用し、利用者が安全で豊かに暮らしていけるよう孤立してしまわない様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に提携先の病院を本院・家族が受診され、病院の雰囲気・医師、看護師の対応等安心し医療を受けられる環境にあることを確認してもらってからかかりつけ医との提携を結ぶことに同意を頂いています。かかりつけ医は24時間連携対応で安心して適切な医療が受けられる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週 1 回の訪問看護時に入居者の変化を伝達・相談を行い入居者様が適切な看護と治療が受けられるよう職員は入居者様の状態を常に把握し小さな変化も報告出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は常時定期的に情報交換、状態の説明を受け、施設での受け入れが可能な段階に来た時は話を進め早期退院に繋がるよう医療との連携に努め、入居者様が安心して医療を受けられるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のお話はさせて頂いており、医師の判断の元ご家族と本人・施設・医師との話し合いが行われ本人の思いを尊重出来るよう何度も話し合い・確認をしながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の応急手当等は日常の中で指導を行っている他勉強会でも学ぶ機会を設けその場になりアタフタしないよう指導している。訓練の結果実践にも繋がられている。冷静かつ迅速に正しく判断・行動出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に 2 回は必ず避難訓練を実施職員全員が均等に訓練に当たり訓練を受けている。運営推進会議時に町内の消防団の方が来て下さる等町内の方の参加もあり協力体制が取れている。日中・夜間想定、出火場所を変えての訓練と工夫して行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が尊厳とプライバシーについて学んでいる。定期的に勉強会の際に意識づけの為尊厳とプライバシーについての話し合いを行っている。入居者様ひとり一人の人格を尊重し日々声掛け・対応に十分配慮し支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定出来る声掛け・ツールを使いながら日常的に自己決定出来るよう働きかけている。自己選択も出来るよう支援している。職員と利用者様との関係性も出来ており要望・希望等も声に出して頂ける関係作りを大切にし日々支援にあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを日々大切にし要望を取り入れながら一日を楽しく有意義に過ごして頂けるよう、可能な限り臨機応変に対応した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ・服装が継続していけるようご家族からの情報をもらう等「いつまでもその人らしく」いられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作っている匂いや音を感じ献立の説明を行い、楽しく食事が出来る環境作りを行っています。食器の後片付けをして下さる利用者様には毎回感謝の気持ちを伝え達成感を感じて頂ける支援も行っています。食事の盛り付け方はおいしく食べれる様工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに応じ医師からの指導を受けている方にはその人に合った量、栄養バランス、水分量の確保を行い、食事困難な方には、ご家族・医師と相談の上好きな食べ物・飲み物の提供をおこなっている。一人一人の能力に応じた食事形態、カロリー計算、水分の確保の仕方を工夫し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施しています。口腔ケアの用具も一人ひとりに合わせ用具を用意し使用して頂き口腔内が清潔に保てるよう支援しています。定期的に往診にて口腔内を診察して頂き、その都度ご指導くださり医師・看護師の指示の元で日々ケアに入っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを極力使用しないで済む様一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け・誘導しトイレでの排泄が出来るよう支援しています。オムツを使用している利用者様には定時交換を行いその際は自尊心に配慮し行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便表を作成しており排便の把握が出来るようになっていきます。朝一は豆乳を提供している他昼食時は乳製品の提供をしておます。便秘がちな方には寒天ゼリーの提供を行う等個々に応じ対応しています。その他適度な運動を加え便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に応じて入浴している他その日入浴したい方の希望を取り入れ入浴して頂いています。利用者様の入浴回数が偏らないよう調整をしながら入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じ医師・ご家族と相談し分割睡眠を取り入れている方もいます。日中適度に体・脳を動かすことで体のリズムを整えられるよう努めています。夕方は足浴を行いリラックス出来る時間を作りゆっくり心地よく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様の服薬している薬の内容・副作用を十分理解出来るよう自発的に学ぶよう指導している他利用者様の疾患も把握しています。常時すぐに確認出来るよう個人ファイルにファイリングし目に付く所に置き入居者の変化時にはすぐに確認出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・食器の後片付けを一緒に行い達成感を得ることでADLの向上にも繋がり、やりがい、生き生きと暮らせるよう日常の中で気分の転換が出来るよう支援してる。作業が出来ない方には場所をこまめに変える、その人が好きなことを取り入れるよう日々工夫し支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気、気温、体調に合わせて外出出来るよう支援しています。地域の方々の協力を得て町内行事に参加したり、普段行けないような場保にもバスを借り外食へ行く等の支援をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の保持が出来るよう買い物の際、支払いの見守りやお手伝いをしながら出来る限りご自分で出来るよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に電話のやり取りが出来るよう利用者様からの訴え時はご家族に電話を掛ける他ご家族から利用者様への電話を引き継ぐ等自由にやりとり出来る環境を提供しています。友人からの電話もあり楽しくお話ししています。ハガキ・年賀状のやりとりも自由に行って頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって不快な音・光・部屋の温度に配慮し対応しています。音には敏感な為食器の音・ドアを閉める音・足音には十分に気を付けています。ホーム内には季節感がわかるように季節に合わせた装飾品を置く・飾る他気持ちよく過ごして頂けるよう、お花のオブジェなども置いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士と一緒に安心して楽しく過ごせる環境の提供を行っています。一人になれる環境も作りも行い、状況に応じ対応しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には以前ご本人が使用されていた家具・持ち物を持って来て頂いており、見慣れた環境で利用者様が安心して、居心地良く過ごせる環境を提供しています。ご家族の写真、他界したご家族の写真等も飾っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態に合わせ、床に滑り止めマットを敷いたり、手すり等設置しています。居室での転倒リスクが高い方に対してはテーブル・ベットの角にクッション性のマットを使用し怪我をしない工夫をしています。日常の中で利用者様と共に出来る事を行いながらフロア・居室は安全性を考え、自立した生活が出来るよう工夫をしています。		